

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立泉北高等学校
取り組む課題	キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外大学の総合型選抜（A0 入試・多目的評価入試等）合格者数 ・ 図書館における地域プロジェクト会議開催回数 ・ 課題研究における文献検索・グループワーク、アクティブ会議スペースとしての図書館活用回数 ・ 年間図書館利用者数、年間図書貸出数
計画名	SHARE-BRARY プロジェクト ～SDGs 未来高校をめざして～

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 新しい時代のキャリア教育</p> <p>第5期科学技術基本計画において我が国が提唱する未来社会 Society 5.0 を見据え、人工知能の発達やグローバル化のさらなる進展など、これからの変化の激しい時代を生き抜き活躍するための能力の育成を図る。</p> <p>※目標：国内 SGU や海外の大学等などが行う A0 入試や多面的な評価での入試（総合型選抜）に強い学校を作り上げ、令和6年度には当領域での合格者数 30 名以上 [R1:16 名、R2:20 名、R3:23 名、R4:34 名] をめざす。</p> <p>ア 課題研究等の取り組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を口頭発表や論文等の形式で他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。</p> <p>イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、A0 入試や総合型選抜（課題研究、長期・短期留学論文等）への対応を図る。</p> <p>ウ 国際教育の充実を図ることを通してグローバルキャリア観を醸成する。</p> <p>エ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲の醸成を図る。</p> <p>オ 上記活動の拠点として、「Sharebrary（シェアブラリー）」[R3 学校経営推進費によりリニューアルした本校図書館] を有効活用する。</p> <p>* R5 目標：地域連携関連会議年間 5 回以上開催・年間来館者数 4,000 名以上 [R2:1,720 名、R3:1182 名、R4:2835 名、R5:4485 名] ・年間図書貸出数 2,000 冊以上 [R2:654 冊、R3:538 冊、R4:672 冊、R5:787 冊]</p>
事業目標	<p>図書館という閉鎖的な空間をオープンにし、地域住民を含む誰もが利用できる図書館づくりを推進する。生徒の年間利用回数や読書冊数の引き上げを図るとともに、いつでも探究活動、読書、コミュニケーション、フィールドワークを行うことができるコミュニティスペースとし、この場をベースに生徒が身につけた能力を活かした大学の総合型選抜において、合格者増を図る。</p> <p>また堺市と連携し、地元の児童・学生や地域住民が参加する「国際会議」や「プロジェクト会議」を開催し、SDGs の No11 「住み続けられる街づくり」の具現化に取り組むことを通して、地域の「教育拠点校」としての機能・役割を果たし、「SDGs 未来高校」の称号を獲得する。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステージ、窓際カウンター、移動書架、照明 ・ 人工樹木、オットマン、入口サイン、ホワイトボード
取り組みの 主担・実施者	<p>企画運営： 課題検討委員会（校長・教頭・首席・科長・教務主任・進路指導主事） 図書館広報部（部長＋7 名） 探究委員会（探究主担＋10 名）</p>

	<p>実施者： 全教員</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>1. シェアブラリーを活用した探究活動</p> <p>①国際交流会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール国立大学とのオンライン交流 2回実施 ・タイ王立ユパラート・ウイタヤライ学校との対面交流(10名の高校生との交流)本校生徒30名参加 ・タイ国日本語教師38名との対面交流(本校生徒50名参加) <p>②探究活動(行政、企業、地域連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堺市 G7 実行委員会との打ち合わせ会議(2回) ・株式会社 Pasah との商品開発会議 5回実施(本校生徒10名参加) ・シェアブラリーコミュニティ開放・地域交流 3回 内1回 堺市中区図書館 職員視察 モデル図書館運営についての意見交換会 ・高校生ボランティアアワード地区予選オンライン参加(3チーム本校生徒10名参加、3チーム全てが全国大会出場) ・広報さかい編集者による本校生徒及び教諭のインタビュー <p>2. シェアブラリーを活用したグローバル教育</p> <p>①学校設定科目 Global Studies の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリフォルニア州立フラトン大学の教授、教員26名とのディベート交流 ・ニュージーランドの日本語教員12名との異文化交流。「アイヌ民族とマオリ族の共通点について」「人権について」の意見交換 <p>②総合型選抜入試面接対策講座(個別指導) 18回実施(本校生徒計4名参加)</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>1. 探究活動(課題研究)の成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を25名以上に増やす。</p> <p>2. 国際会議・プロジェクト会議を4回以上開催する。</p> <p>3. 探究活動・プロジェクト会議・国際会議・自習空間のための共有スペースとして活用することで図書館来館者を3500名に増やす。</p> <p>4. 読書習慣を定着させ、図書貸出し冊数を1,500冊以上に増やす。</p>
<p>自己評価</p>	<p>1. 総合型選抜(国公立・私立)と学校推薦型入試(国公立)の合格者合計は今年度9名であった。……………(△)</p> <p>2. 国際会議・プロジェクト会議は、4回開催(うちオンライン2回)……………(○)</p> <p>3. 今年度来館者数4485名……………(◎)</p> <p>4. 今年度図書貸出し冊数は787冊……………(△)</p> <p>探究活動を行う上で、シェアブラリーで企画会議や戦略会議、オンライン会議をすることができたため、その利用価値が上がった。また、来館者の数貸し出し数はやや増加した。今後も持続的に貸し出しを促していきたい。</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>➤ シェアブラリーの活用により、AO入試や多面的な評価での入試(総合型選抜)に強い進路指導を行うことができた。また、生徒の学びの場としてシェアブラリーを活用し、課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を口頭発表や論文等の形式で他の者にうまく伝える」能力の育成を図ることができた。</p> <p>➤ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲を高めることができた。生徒や教員に有効性が認知されてきており、今後のさらなる活用が見込まれる。</p>